

国立天文台・天文情報センター・特別客員研究員 中桐正夫

### \*三角定規などの文房具を収蔵

今回の収蔵品は、退職された先人の遺されたもののなかに国立天文台博物館（筆者が目指していた）のようなものができた際には収蔵品としてアーカイブしたい大きな三角定規などである。今ではパソコンのソフトで図が簡単に書けるので研究者の机の引き出しにはもはや定規の様なものがないのが実情である。写真1が、今回の三角定規、直定規である。



写真1 三角定規、直定規

三角定規は通常、角が  $45^\circ \cdot 45^\circ \cdot 90^\circ$ （直角二等辺三角形）、と角が  $30^\circ \cdot 60^\circ \cdot 90^\circ$ （正三角形の半分）の2枚組で、平行線や垂線を作図するために用いられる。2枚組のものは、直角二等辺三角形の斜辺と、半正三角形の長いほうの隣辺は長さが等しい、今回のものは45 cmである。目盛りがついているものもあるがこれらには目盛はついていない。比較的大きなもので直角二等辺三角形のものは斜辺が45 cm、正三角形の半分のものは斜辺が52 cmある。直定規は長さがそれぞれ60.5 cm、30.5 cmである。

筆者の時代には、三角定規、直定規はプラスチック製のものであった。写真2はプラスチック製の直定規と分度器である。

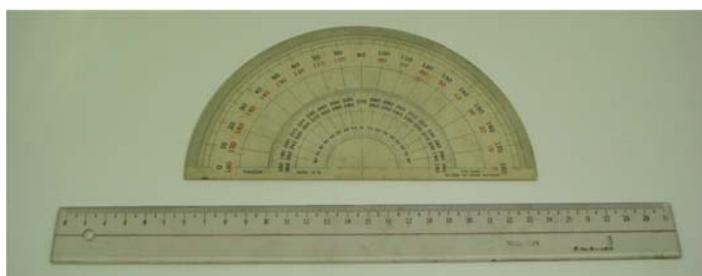


写真2 プラスチック製の直定規、分度器

これらも、もはやほとんど使う場がなくなってしまった。この類の文房具に円を描くコンパスというものがあつた。先人の遺した文房具の中にも大概入っていて、筆者の引き出しには写真3のように何本もある。



写真3 先人の遺品のコンパス類

写真3のコンパスの左から2本目は筆者の愛用したものである。

この他によく使われた定規にT字定規（写真3）がある。



写真3 T字定規

今では、ほとんど使うことのなくなったこれら文房具が博物館の展示品になる時代かと思うと灌漑深いものがある。

これらアーカイブ新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、[arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp](mailto:arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp)